

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

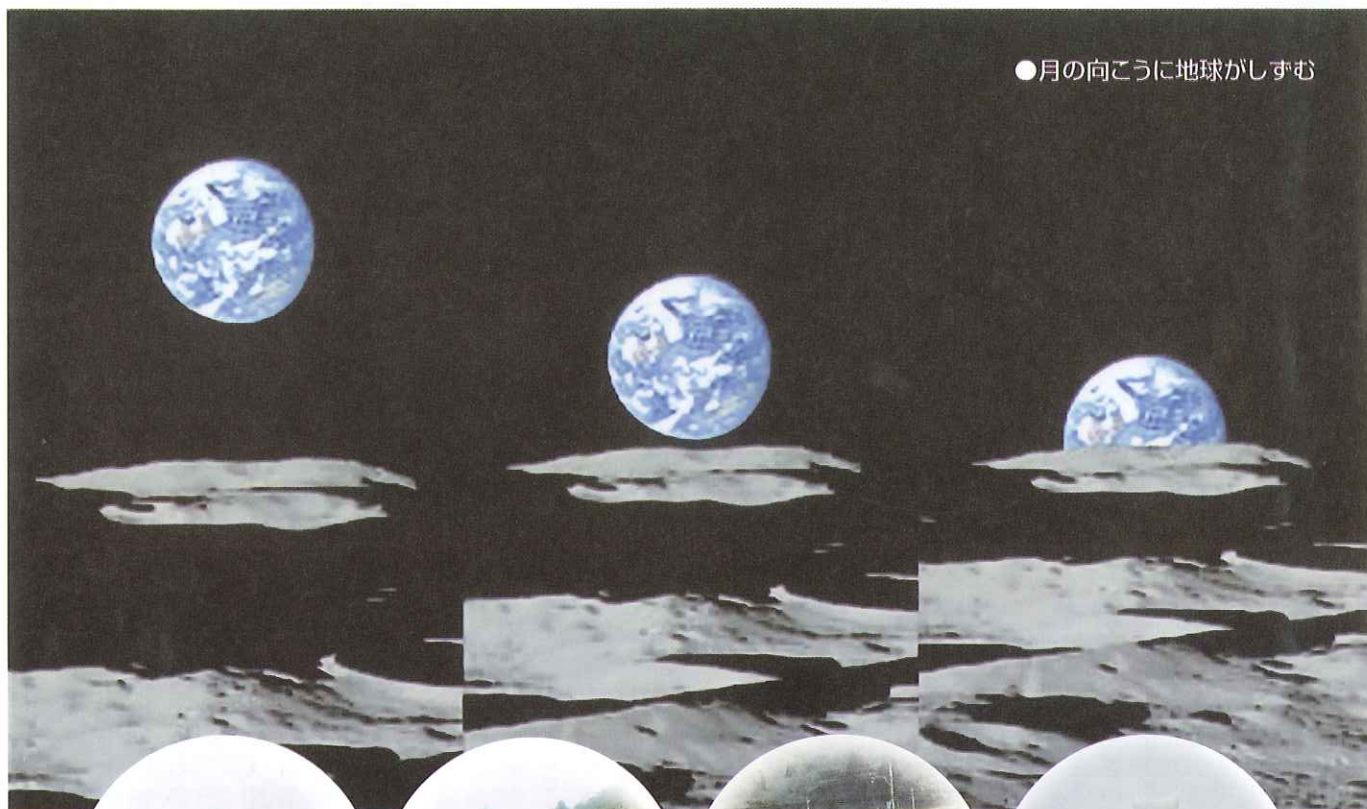
発 行
二部地区活性化推進機構

編 集 会
総 務 部 会

事 務 局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二 部 公 民 館 内
TEL・FAX 0859-62-7159

●月の向こうに地球がしずむ



ストップ わら焼き



山の緑化も一策



省エネの太陽光発電



節電への気配り

地球温暖化の恐怖

「かぐや」が撮った美しい地球

その地球の将来が危ない

温暖化が もたらす

異常気象と災害の多発

それによつての 食糧不安

氷山溶解と海面上昇

何れも 二酸化炭素の影響だ

今こそ 温暖化対策を

家で 地域で 国で 世界でと

その取り組みが緊急課題

明日からで無く 今すぐに

省エネ 節電 脱化石

森林緑化や環境教育も有効だ

ワラ焼き、ゴミ焼きも

中止して

みんなの力で地球を守ろう

今年のたたらまつり

安達 允

「たたらまつり」は昭和五九年度に始まり、今年は二四回目になります。はじめのころは手さぐりのようで苦労も多かったのですが、今ではみんなで盛り上げようという気分に満ち、郷土の最大の年中行事として定着しているのは、本当に嬉しいことです。今年も無事盛大に催され、何よりでした。

「二階は「郷土の歴史」部門の展示です。今年のテーマは昨年に引き続き「二部小学校②と二部中学校のうつりかわり」を取り上げました。小中学校の主な出来ごととは十三ページの小冊子にまとめ、希望の方に自由に取っていただきました。展示してある年表や図表や校舎の模型は人目を引き、数十枚の展示写真になつかしい人を見い出して喜ぶ方も多かったようです。五〇年も昔の通知票が並べられ、保存の良さに驚きました。昭和三年に始まった小学校の完全給食は、当時のメニューを再現しました。それぞれの服装をつけた一四、五体もの人体は、毎年のことながら女性委員の苦心のたまものです。中学校開校の年から始まった距離が二〇キロメートル近くもある村内一周駅伝競走は、立体地形図にコースを図示しました。当時の選手たちは、難コースを走った思い出ばなしなどがはずんだようです。昭和二五年には、大山椒魚贈呈式がありました。鳥取県の子供たちから間地田代産の四匹を、アメリカダラス市水族館に贈ったのですが、二人の外国人も交えた当時としては非常に珍しい盛大なイベントでした。数々の写真や手製の縫いぐるみなどを並べ、NB合唱団が吹き込んだ「贈る歌」のテープを会場に流しました。昭和四四年に制定された小学校の校旗と校歌も紹介しました。半世紀にもおよぶ小中学校のうつりかわりをどう表現するかと多人数で苦心しましたが、どうだったでしょうか？二階入口では毎年写真展「二部谷の四季」が催されます。今年は四回目ですが、力作ぞろいでした。これまでの入選作を中心に、今年中には写真集出版の計画があるようです。

同好会やグループ一般作品は、今年は点数が少なくなりはいかなにか空いたところが出来はしないかと、心配されていました。ところが出品はこれまでより多く会場にとこせましと並べられ、特にグループや一般作品が多いのが目立ちました。多彩な内容ですが、レベルは高いと評判でした。小学校や保育所の子供たちの作品には多くの可能性がうかがわれ、頼もしく見ることができました。食改の皆さんによる「食生活と健康」の啓発には工夫がうかがわれ、多くの方々がなつとくとして味わって居られました。持ち寄りの小豆と二部こぶしの会の皆さんのボランティアによる名物のぜんざいは、例年にも増しておいしくみなさんの心づくしが感じられると、喜んで賞味していただけたようです。テントでの農産物などの販売は大規模で、賑やかでした。今年の開催期間は二月一六日(土)～一八日(月)午前中までの二日半でしたが雪模様の日が多く出足に影響があり、「天気が



グループ展示



郷土の歴史展示

達んだ「贈る歌」のテープを会場に流しました。昭和四四年に制定された小学校の校旗と校歌も紹介しました。半世紀にもおよぶ小中学校のうつりかわりをどう表現するかと多人数で苦心しましたが、どうだったでしょうか？二階入口では毎年写真展「二部谷の四季」が催されます。今年は四回目ですが、力作ぞろいでした。これまでの入選作を中心に、今年中には写真集出版の計画があるようです。

同好会やグループ一般作品は、今年は点数が少なくなりはいかなにか空いたところが出来はしないかと、心配されていました。ところが出品はこれまでより多く会場にとこせましと並べられ、特にグループや一般作品が多いのが目立ちました。多彩な内容ですが、レベルは高いと評判でした。小学校や保育所の子供たちの作品には多くの可能性がうかがわれ、頼もしく見ることができました。食改の皆さんによる「食生活と健康」の啓発には工夫がうかがわれ、多くの方々がなつとくとして味わって居られました。持ち寄りの小豆と二部こぶしの会の皆さんのボランティアによる名物のぜんざいは、例年にも増しておいしくみなさんの心づくしが感じられると、喜んで賞味していただけたようです。テントでの農産物などの販売は大規模で、賑やかでした。今年の開催期間は二月一六日(土)～一八日(月)午前中までの二日半でしたが雪模様の日が多く出足に影響があり、「天気が

良ければなあ」という思いがありました。それでも受付簿に記入の人数は約五〇〇名で、天候のわりには決して少ない人数ではありません。開催期日は、今後の検討課題かと思われます。今年に来館の皆さんにアンケートで感想など記入してもらいました。地区をあげてのこの行事への取組みが感じられ、内容もすばらしかったといったものが多かったのは、有難くも嬉しいことでした。今後ともみんなの手作りで、楽しめるふれあいの場「たたらまつり」が、いつまでも続けられることを願うものです。

先進地視察に参加して

田村 清

新しい年が私達にとって笑顔の多い幸せ一杯の年であってほしいと願います。

二部地区活性化推進機構の先進地視察が去る12月17日に実施されました。参加者は、住田泰会長他会員26名、伯耆町役場職員5名の計31名で、マイクロバスで二部を8時30分に出発しました。視察地は、島根県飯石郡飯南町上赤名自治振興協議会と地域研究センターです。

山陰自動車道を通り国道54号を経由し広島方面へと、バスの中は皆さんの話がはずみにぎやかでした。視察地が近くなると車窓から景色を見ながら「二部地区よりこちらのほうが条件が良い」とか、移動をするにつれ「二部谷の方が住み良いぞ」とか色々話している内、視察地に11時過ぎに着きました。上赤名公民館で自治区役員の方、飯南町役場の方から自治会組織、運営方法、自治会の現状などについての説明をうけました。

上赤名地区は、標高500m山林が地域の85%を占める山間地で、産業の主体は稲作中心で島根県で雪が一番多い地域です。

平成の合併時に町の方針で49集落を8つの自治区にまとめた。1自治区を100戸位に再編し、8自治区ある中の一つが上赤名自治区です。

設立してから年数が浅いのでこれといった実績はありませんが、これから集落営農等色々な課題に取り組んで行きたいと自治区役員は、熱く語っていました。

昼食は、道の駅で済ませ、午後は、島根県中山間地域研究センターを視察しまし



上赤名会館で

た。このセンターは、中国地方の中山間地域をどのようにしたら振興できるか。たとえば、中山間地域周辺の限界集落の問題、空き家の問題等振興に関する課題点を研究し中国五県の知事に提言し、それを知事は国に要望する。非常に重要なポジションのある施設です。

センターの科長藤山浩さんの話の中で「高齢化は中山間地域だけの問題ではない、都市も同様で中山間地域よりむしろ問題が大きい。中山間地域は限界集落にしない様にする方法、手段はまだまだ沢山ある。」と心強い言葉を聞きました。

私達は時代の流れだ。どうする事も出来ないと半分あきらめているのではないのでしょうか。

私達二部地域の老若男女が、もっともっと多くの話合いの場を持ち、色々な知恵やアイデアを出し二部地域の自然豊かな村を限界集落にしない様に努力しなければ、頑張らなければ、「どげぞせにゃいけん」と胸を熱くして帰路につきました。

飯南町視察に参加して

加藤 正純

二部地区活性化推進機構の先進地視察には、会員の一人として参加したので、その感想を述べたいと思います。この視察先は市町村合併による自治会再編と中山間集落のあり方を研修しようとするものでした。

午前中に飯南町上赤名地区自治区を視察。旧赤来町時代(2年前)、49自治会以上あった集落(行政単位)を、合併新町誕生時に、僅か8ヶ自治区に集約を果たした。との話しにお驚き、よくもやれたものと思いました。

現在我々の地元でも、役場のまちづくり推進室職員を交えての、話し合いの場もあったのですが、「小部落切り捨てか!」等の意見が声高となり、中々新時代の扉を開こうとしない風潮がやはりあります。上意下達のとおり良さだけでは、これ程の集約は困難だったことでしょう。町の立案者は無論、地域受け皿側にも、相当指導力のある人が、当たられたのだろうと推察できました。リーダーのお話の中で、税金で養われていた者(公務員)はせめて退職後は、地域のために無報酬で働く。との覚悟を聞き、久々に、心洗



研究所内で

われる感銘を受けました。

都市部のように、校区単位程の集まりになれば、人材も多くなり、行政への提案や地元の役割行動(活動)も、強力に推進出来るとも感じました。

平成20年、二部小学校一年入学者が、1名のみと言う事実を聞き、まさかの想いです。福岡分校どころか、数年後には、二部小学校すら無くなってしまう現実が、確実に迫っています。

大きな声を出すのも、イベントを立ち上げ賑やかに取り組むことも、またお祭り騒ぎをするのも活性化ですが、もはや小地域のみの取り組みでは、確たる結果を見通すこと不可能と思える程の時代変化が現状です。

そのことから、飯南町旧赤来町集落中山間地域振興協議会の取り組みには驚かされたところでした。

午後の視察先である島根県立中山間地域研究所については、恥ずかしながら、私はあのような研究機関の存在すら知りませんでした。それも山陰中央に、しかも、若手研究者が精力的に研究を進め、一定の集落モデル構築を想定していることも!

中山間地域の集落データがその研究所で把握され、求めれば指導が受けられることも可能との認識を持ったところでした。この視察が私に教えたものに、今後の地域活動の仕事を進めるうえで何もしない事(無為無策)が、最も駄目だと教えられたことです。

その意味で、二部活性化推進機構の役員の方のご活躍、指導力に心から敬意を持って、拍手を贈りたいと思います。

「二部地区活性化推進機構」の活性化に向けて

組織再編検討委員会委員長 其山 守美

二部地区活性化だより14号で取り上げた「平成19年度委員総会」の記事を受け、具体的な2項目の取り組みが決定されました。

この2つのプロジェクトを実施に移行するため、本機構の部会から2名の特別委員を選任し、検討することとしたものです。私の担当は組織検討事業のプロジェクトでした。

実質的には8月からの活動で、命題を頂いた責任上、当初は何をどのようにまとめ上げられるのか方向性が定まらないとも考えました。しかし、検討委員のみなさんの積極的な検討や意見討議の下、年度末には会長に対し答申案を提言できる運びとなったところです。

二部地区ファンクラブ結成対策の検討委員会も順調に討議が進められ、答申案を提言できるとのことです。私たち特別検討委員に与えられた使命は果たせたかな、と感じているところです。

以下に私の担当した答申概要を報告したいと思います。

〔答申案の概要〕

この委員会は、発足10周年を迎えた二部地区活性化推進機構の組織及び事業について見直しを図るため、平成19年度委員総会において本年度の重点課題として提案されたものであります。本委員会に与えられた目的や役割等については、次のとおりです。

- 目的 年次の経過とともにややマンネリ化した活性化推進機構の活動に活を入れる。
女性や青年層の参画を促進するため、組織の見直しを行う。
- 役割 名称も含めた組織再編案を検討する。

- 目標 ① 名称の改正
② 組織の再編
(部会の構成、委員の選出方法)

活性化の各部会から選出された委員を含めて19名で立ち上げられた本委員会は、8月から5回に亘って審議を重ねて参りました。そして、与えられた課題について、次のとおり試案という形で提案させていただきました。

【提 案】

①名称、愛称について

- ◎ 「二部地区活性化推進機構」の名称は変更しない。
- ◎ 愛称として、次の5つを提案する。

- ① 拓土の会
- ② 野上川の風
- ③ いきいき二部
- ④ ロマン街道 二部
- ⑤ 伯耆星の里

②委員の選出方法について

- ◎ 区域ごとに選出している「部落推薦委員」を単位集落推薦に変更し、増員する。

③部会構成と事業の見直しについて

- ◎ 全家庭に参画してもらえるように、活性化の事業を精選する。
- ◎ ファンクラブ部会、人材バンク部会を新設する。

以上が概要ですがこの答申案をまとめるにあたり、役場からのさまざまな資料提供があったことを申し添え、検討委員会から「活性化にむけて」の報告とします。

活動日誌メモ

(月 日)	(内 容)	(月 日)	(内 容)
平成十九年			
九、三	スポーツ部会(運動会ほか)	二、四	一部地区部落代表者会議
一〇	会報十四号 配布		(ファンクラブ計画の協力再依頼)
二二	特別委員会(ファンクラブ)	二、一七	島根県先進地視察
一〇、一〇	二部地区部落代表者会議 (ファンクラブ計画説明)		(三名参加)
一七	ボランティア部会福祉活動 (花回廊)	平成二〇年	
二二	福岡地区ウォーキング	一、二五	特別委員会(組織再編)
	三二名参加	二、五	たたらまつり第二回実行委員会 たたらまつり実証開始
二四	特別委員会(組織再編)		(畑池)
二、一九	特別委員会(ファンクラブ)	六	フォトコンテスト審査会
二〇	総務委員会(先進地視察ほか)	一六、一八	
二三	山菜現地研修会		第二回たたらまつり
	(二二名参加)		(四九四人参加)
二五	二部地区道路・河川一斉清掃	二八	山菜集荷契約打合せ
二七	特別委員会(組織再編)	三、一二	たたらまつり第三回実行委員会
		下旬	会報十五号 発行配布

あとがき

三月に入りましたが、まだ寒い日が続いております。二部地区の一大イベントである『たたらまつり』も盛況のうちに終わりました。ご協力いただいた皆さん本当にご苦労様でした。あちらこちらで春の気配も感じられるようになりました。春の農繁期も目前に迫っております。

同時に二部地区においては、少子高齢化が一段と進行し限界集落の対応策が喫緊の課題です。お互いに知恵を出し合いながら、住みよい環境づくりに期待したいものです。